

『あらためて学ぶ「フィジカルアセスメント・頭部外傷・災害時対応」』

和歌山県立医科大学 救急集中治療医学講座
和歌山県立医科大学附属病院 高度救命救急センター

助教 那須 亨 氏



(令和2年9月1日(火)動画撮影)

私たち養護教諭が知っておきたいフィジカルアセスメントや頭部外傷、災害時の対応に関する考え方について、具体的なお話を聞かせていただきました。

1 フィジカルアセスメント

第一印象で重症度を見極め、バイタルサインを重要視する。

【バイタルサインの測定・基準値】

バイタルサインを測定する習慣をつける。血圧の判断には、血圧計での測定以外にも、橈骨動脈触知や、CRT(爪を5秒間圧迫して、圧迫を解除した後に赤みが2秒以内に帰るかどうか)で確認する方法がある。

【意識の評価方法】

意識状態の確認には「日付・場所・人」を問う。「人」について問う際には、自分の名前は答えられることが多いため「あなたの名前は？」と聞くより、「私(養護教諭)が誰かわかる？」と聞く方がよい。低学年の児童にとっては日付を答えることは難しい可能性もあるが、基本的に「日付・場所・人」のうち1つでも間違えたら「意識障害あり」と判断する。



2 頭部外傷

外出血には圧迫止血が基本。頭蓋内出血と脳震盪には注意が必要。

【頭蓋内出血】

頭蓋内出血を疑う症状を知っておくことが大切である。その症状を含め、頭部打撲時の注意事項をまとめた用紙を準備しておくこと、保護者説明の際に活用できる。頭部打撲時は、頭蓋内出血の症状が無い場合でも48時間程度は様子を見る必要があり、激しい運動は避ける。

【脳震盪】

脳震盪を疑うときはセカンドインパクト症候群に注意する。例えば、ラグビーや柔道などの競技で頭部に衝撃を受けたときは、しばらくは練習内容を検討したり、体育は見学したりするなどの配慮が必要である。

3 災害時対応

児童生徒が学校にいる時間に災害が起こったら・・・。

【トリアージ】

トリアージとは、治療の優先順位を決定することである。学校で大きな災害が起こった場合、その場で養護教諭がトリアージを行うことは想定しにくい。しかし、同時に2人以上の傷病者の対応をする際には優先順位をつける必要があり、養護教諭は日常的に無意識にトリアージを行っていると思う。災害発生時のトリアージの考え方も知っておいてほしい。



4 まとめ

【「オーバートリアージ」と「アンダートリアージ」】

傷病の程度を実態よりも重く判断し、救急車を要請することをオーバートリアージといい、必要があるにもかかわらず、遠慮して救急車を要請しないことをアンダートリアージという。学校で養護教諭をはじめ、教職員の誰か一人でも「おかしい」と感じたら、それは救急車を呼ぶべきタイミングと思ってほしい。これはエピペンを使用の際にも同様のことが言える。

【訓練をしないことは「失敗を計画すること」】

災害はいつ起こるかわからないから訓練するしかない。訓練しないと災害時が本番になってしまう。各校で災害時の対応を考えられるよう、養護教諭からも発信してほしい。